

あなたは？	報告(名古屋大学鈴木教授)をお聞きになって感想や意見などありましたらお書きください。	委員ディスカッションや全体ディスカッションをお聞きになって、感想や意見などありましたらお書きください(大学や生協への要望や提案、社会に対する要望や提案などもこちらで)	本日の研究会の運営(ライブアンケートも含む)について、お気づきのこと、改善点などありましたらお書きください	2023年もこの研究会を継続する予定です。研究会の在り方、取り扱って欲しいテーマ、お聞きになりたい報告・人などありましたら、お書きください
大学生協役職員	『声をかけること』が寄り添うことの第一歩につながると感じました。『当たり前』を失ってしまった学生に、自分が『当たり前』と感じている価値観を無理強いしないことを、今後も気をつけて行きたいと思います。	学生の委員の皆さんお発言を伺っていて、そんなに気を使うことなく、深く考えることなく、日常的なコミュニケーションができるなと感じました。これからの自分の行動で活用したいと思います。		
大学生協役職員	全学生への面談ということで、学生数もさることながら様々な部局の方が行き、名古屋大学の学生さんのような方々にも厚い支援が必要な状況なのだと思います(いわゆる旧帝大の学生さんという、少し前だと学生の自主性に任せているという印象も強かったのだ)。 精神面の支援という、カウンセリングや個別相談が注目されますが、一次対応としての取り組みを様々な点にされており、まず最初の段階で予防的に取り組むという点は大学生協としても考えていきたい点と思って拝聴しておりました。当生協の学生さんたちがメンタルヘルスに関する取り組みを計画しておりまして、生協職員としても何か一緒にできることがないかと考えておりましたが、いろいろヒントになることが得られました。ありがとうございました。			
大学生協役職員	学生たちの当然と偶然がなくなったという言葉が非常に印象に残りました。 また、名古屋大学が非常に多くの取り組みをされていて素晴らしいと感じました。	いろいろな場面で“つながり”作っていくことが必要。 食堂が本来持っていたそういった機能をまた発揮できるようになるといいのですが。 学生委員の実施している歓迎企画なども非常に重要な取り組みだと改めて感じました。	お疲れ様でした。	

<p>大学生協役員</p>	<p>長引く「コロナ禍」の中で、学生の意識も多様なものになっています。今でも「オレの大学生活は何だったんだ」と思う学生もいるかもしれない一方で、「コロナ禍で大変だったね」と言われることに抵抗感を感じる学生や、オンライン講義の環境を十分に活用した結果、対面講義に回帰した現在を憂う学生も。そんな中で、これからの「学生支援」ってどうなるんだろうか、と感じました。大学内でそのような議論が始まっているのであれば、その点についても学びたいと思いました。</p>		<p>今回は鈴木先生の話に引き込まれて、ライブアンケートを書く暇もなかった感じですね。</p>	<p>学生の視点から、コロナ禍の「多様化する学生」を深めたいと思いました。</p>
<p>大学生協役員</p>	<p>大学が大学としてコロナ禍の学生をどうケアしようとしたか非常に参考になった。食堂の機能についての言及は生協職員がそこまで意識出来ていない(食は身体もつなぐが、コミュニケーションもつなぐ)事だと思うので、その機能をどう安全に発揮させるかの視点で食堂事業方針にも反映させたい。</p>	<p>途中から別会議の為退出しており伺うことが出来ていません。</p>		<p>学生をどう守り、育てるか？のテーマで大学の中でそのことを考えていらっしゃる方に、その中で大学生協への期待を伺いたいです。</p>
<p>大学生協役員</p>	<p>貴重なお話しありがとうございました。まず、名古屋大学の学生に対する手厚い親身になった対応とその実行に驚きと敬意を表したいと思います。そもそもの体制の整備もですが、全学生を対象の面談や散歩企画など、先生方の覚悟が感じられて、素晴らしいと思いました。</p>	<p>「つながり」や「偶然」というキーワード。情報ツールが増えたことによって、「つながり」のツールも変わって来ている中で、学生たちもツールを選択できるようになったけれど、人と人の直接のつながりを試す機会が非常に少ない中で、気楽なツールに頼ってってしまうことはとても残念だなと思います。</p>		
<p>大学生協役員</p>	<p>事業連合職員となって以来、学生に触れる機会が少ないため、こういった報告は極めて、貴重なものだと感じました。 また、名古屋大学で行っている取り組みについて、他の大学との情報共有を行っているのか？など、横の連携がなされているのか？を教えてください。 ※よい取り組みをされているので、ぜひ、横連携を強め、全国の大学で広まることを願っています。</p>	<p>もっと、多くの学生、大学職員にこういった事例を参考にいただき、広めていただきたいと感じました。</p>		

<p>大学生協役職員</p>	<p>会員生協経営委員会およびキャンパス別委員会のため遅刻早退申し訳ございません。 今日の前にいる人は新世代の人、なるほどな…と思いました。孤立は享受するしつなかりは全く必要ない、またはこれ以上のつながりは必要ない、などは見ただけではわからない。助けをというかつなかりを必要とする方に場を提供するのはもちろん重要だが、つながりが本当は必要なんだけど気付いていない方に場を提供することって大事な、と思いました。目的別にちょっとでも気にかかるメニューを用意するのか、一人の方の必要とする思いに共感できる場を提供するのか、共感する関係性が築けていない方に「相談室行ったら？」とか言われても行かないし、たまたまの参加という偶然性を生む場を提供しそこで顔見知り、そして共感した方に「相談室行ったら？」となると救いの大きな結果になる、生協はそんな場の創生に必要な、と思いました。</p>	<p>早大メンタルヘルスプロジェクトは一人のオンライン問い合わせから始まっています。今は、一定の課題解決感があって収束気味ですが、つながりを実現した場を提供した、誰かを助けることができたかも、とは思っています。なお、全体としては3年生が学生委員会等の参加が希薄という事であったが、早稲田では学生委員会を再建した、そこに携わった学生有志は実は他の学生委員会と異なり3年生が多い、つまり既存の組織が無かった場合はその拠り所を求めて3年生が参加する、と考えている。</p>	<p>研究会の発信はたくさんあったが、委員会の発信が随分前に一度、だったと思います(違っていたら申し訳ございません)。当日の研究会後のZoomアドレスなど、直前にリマインドがあると嬉しいです。</p>	
<p>大学生協役職員</p>	<p>カウンセリング対応も含め実際に大学の学生相談窓口のお仕事をされている方からのお話は大変貴重で、大変勉強になりました。特にコロナ禍においては部署単独ではなく全学の協力を得られるよう根回しもされる等、本当に学生の命を守るために業務にあたられていることが伝わりました。</p>	<p>学生の皆さんの発言、とてもしっかりされていて驚きました。中でも、人との接点を必要と感じていない学生(コロナを1人で乗り越えられてしまったと感じ必要を感じない学生)が一定数居る、という話は興味深い意見でした。1人を好む学生は昔からいるとは思いますが、そうではない、諦めたような思いで人間関係を見つめている学生が増えてしまったのであれば、何とももどかしく思います。一方で、それが当然と思ふ物事に取り組む価値観もあるものかもしれない、とも考えさせられました。</p>	<p>学生さんだけでなく、他の参加者の方からの感想やお声も聞けて非常に良かったです。お忙しい中、鈴木先生、米山先生はじめ皆様、実施いただきありがとうございました。</p>	

大学教員	大変に貴重な機会となりました。ありがとうございました(終盤の時間帯に電話がかかってきて、十分に聞き入ることができないところがありましたが、資料も配付下さり、これもありがたいです)。	様々な立場の関係者から大学と学生の現下のありようが注目されていることを、今回改めて実感しました。	特には見受けられませんでした。	総体的な人数などの関係で取り上げられる順位的には下がってしまう存在(大学院生や留学生など)の回も、どこかであるといいのかも、と(思いつきレベルですが)考えました。引き続きのご企画、開催も楽しみにしております。関係者の皆さまには、今年度のご活動お疲れさまでした。
大学教員	全員面接の話を聞いて、まずは教員から声をかけるだけでいいんだということをお伺いして、ハードルが低く感じこれからやってゆきたいと思いました。	学生さんの話で友達出来るとそれで満足してしまうというのがありましたが、自分自身も最近新しい知り合いを作るのは面倒に感じているところがあるなあと思ってしまいました。	今後よろしく願います	特にありません
大学教員	途中まででしたが、コロナ禍での他大学の状況、対応策をお聞きする貴重な時間となりました。	途中で退席させていただきました。すみません。	遠方につき、オンラインでの参加は、参加希望を出すことができ、機会をいただけたのですが、職場からの接続になりますと業務が入ると業務優先になってしまいます。運営の皆さんは素晴らしいと思います。	アクティブラーニング、グループワークなど学生(たち)が主体的に受講し、学習する機会が増えております。またオンラインでの受講も日常になっております。学生による授業評価、勉強法、工夫、不安など共有できたら幸いです。
大学教員	私は消費生活センターで相談員も兼務していることから、コロナ禍では多くのマルチ商法の相談を受けました。どんなに説得しても事業者の言葉を信じ、遂に解約する道を選ばなかった学生。その後、借金の返済に行き詰まり悲惨な道を辿ったのではないかと、青ざめた学生達の顔が浮かんできました。	コロナ禍で学生達は教員から一言、声をかけてもらうだけで、どれほど勇気づけられていたのかが分かりました。私のような非常勤講師は、研究室を持っていないので、オンラインの授業で軽々しく言葉をかけてはいけないのではないかと遠慮をし続けていました。が、非常勤でも声をかければ良かったのかもと思いました。	特にありません。	私が学生達に食のアンケートをした時、経済的な理由から、食費を削り、1日2食にしている男子学生が目立ちました。食の専門家から正しい食生活のあり方や、経済面からも、サブスクを1本減らしても健康な食生活を送ることが病気にもかかりにくくなることなど、メリットがあることを説明していただきたいです。

大学教員	名古屋大学のコロナ渦での学生支援の取り組みの詳細を紹介下さり大変参考になりました。	学生(卒業後の方も含む)さんが積極的に発言されていていいなと思いました	貴重な会を企画・運営いただきありがとうございました。	コロナ渦はまだ終息していないことから、来年にかけてもその影響はさまざまにあると思います。今回の企画趣旨を継続した内容で来年また開催いただくことも有益なのではないかと思いました。
大学教員	素晴らしいプレゼンテーションでした。共有していただいた資料を再度拝見して勉強しています。	学生さんからの発言があって良かったです。時間が許せば、少人数に分けてグループワークをするとまた違ったご意見がいただけるかもしれません。		
学部3年生	名古屋大学の様々な取り組みを共有していただけたのが良かったです。大学側が学生を見捨てていないという姿勢をみせることはどの大学、どの大学生協でも大事にしたいと思いました。			この研究会の内容をもっと多くの人に、広く発信して大学生協としてこの委員会を設置して学生生活を考えているということを組合員や社会全体に知ってもらえると嬉しいです。
メディア・マスコミ	非常に具体的な内容で、データも豊富に示され、現状を理解することができました。	学生さん(学生委員長含む)も活発に発言してくれて、鈴木先生をはじめとした教員目線とは、また異なる視点を提供してくれて、多角的に学生の現状を知ることができたと思います。	特にありません	電気料金を含む物価高騰、資材不足などの教育、研究への影響について知りたいと思います。
メディア・マスコミ	大学側や社会人から学生の声を聴く取り組みを実施しなければ、見えてこないものも沢山あると感じました。自発的に自分の想いを言えない学生も多いと思うので、名古屋大学様の取り組みは素晴らしいものだと感じました。	学生委員会の方々の声は、採用活動以外で、学生の方々の声を聴く機会が無い我々社会人にとって非常にありがたいものです。今後このような貴重な機会に参加させて頂けますと幸いです。		学生の方々が、社会人に求めること(特にマスコミ企業)など教えて頂けると助かります。どのような支援をさせて頂けるのかの要望(ニーズ)を伺い、私も局内の上司陣へ提案をしていきたいと思っております。もしそのような機会を頂けると助かります。

その他	これまで地域生協対応のキャリアが長く、学生を交えたイベントにはあまり出たことはありませんでしたが、専門家である大学の先生と学生が直接対話する。散歩にも一緒に参加されているということ、こういう時代だからこそ人と人との対話がとても大事だということを認識しました。	リモートとはいえ、直接話を聞く場は非常に重要だと感じました。今後は対面での開催も検討されるかと思いますが、その際はぜひ参加してみたいと思いました。	特にありません。	これからコロナ禍で育った学生が就職していきますが、就職活動の実態等、聞いてみたいと思いました。
その他	先生の報告、自分の環境設定の脆弱さにより、しっかり聞くことができませんでした。資料を拝見することはできますでしょうか。	今回参加の学生のみなさんはコロナ禍の大変な状況を受け入れながら、次へと生かしている(生かすために考えている)と感じました。		見守るに加えて、今後自分のこころの叫びを発することを手助けできる様な事もあればいいと思いました。きっとまだまだ自分のこころに「爆弾」を抱えていて、投げ出せずにいる学生は多いと思います。
その他	本日はご報告いただきありがとうございました。学生支援の中で、2021年の緊急事例の増加を受けて行った、できる限り全学生との面接をするという取り組みを知り、驚きました。ディスカッションの方でも言及がありましたが、やはり、学生を救うという強い気持ちが学生へのアクションにつながり、その気持ちが学生にも伝わり、結果に表れているのだと感じました。	全体ディスカッションの終盤でお話がありましたが、学生が消費者トラブルに遭わないようにするために、大学の事務局での注意喚起なども重要だと考えております。消費者トラブルは、報告で言及されていた緊急事例のような直ちに生命に直結するような内容ではないことがほとんどですが、社会経験の浅い学生がトラブルに巻き込まれるのを防ぐための取り組みを、様々な組織で連携を取りながら行っていく必要があると感じました。		
その他	大学が学生の状況に危機感を強く感じ、対応されたことに驚きました。一方、年々、適応していった学生達も多くなったのか？と気になりました。		ライブアンケートはiPadなどタブレットでの参加の場合、見づらいなと感じました。	

<p>その他</p>	<p>コロナ禍で緊急対応として、学生全員面談へ踏み切った大学の意思にとっても感銘を受けました。私自身もコロナ禍に突入した時点で大学生協の現場に勤務しており、学生の悲痛な声を聞くだけで何もできずにおり、悔しいおもいをしておりました。あつてほしくはないのですが、今後も大きな災害やパンデミック等で今回のような状況に起こりうると思います。そんな中でも可能な限りお話の中にありました「偶然の構築」ができる場を作る努力をしていきたいと思っています。</p>	<p>コロナ禍で対面で交流する機会を失っただけでなく、対面で交流するための経験やそれを伝える力が失われたと感じています。子どもが大学1年生で大学生活の話を聞きますと、サークル活動では、先輩が少し頼りない等の発言があり、先輩への敬意が少し希薄と感じます。それは上級生が不真面目や力不足などではなく、このコロナ禍で対面活動の経験がなく、新たに1から対面での活動を構築し、悩みながら進めているのではないかと考えており、非常に大変だと思っています。そんな中でもコメントしていた3～4年生の学生のみなさんは自信をもって経験や考えを話され悲観していなかったのが安心しました。直接お力添えできる機会はありませんが、そんながんばっている学生のみなさんを影ながら応援したいと思いました。</p>	<p>特にございません。</p>	
<p>その他</p>	<p>コロナによって、それ以前は当たり前だったこと(人間関係の構築)が、今は当たり前でなくなった。そうした状況の下での、学生の大学生活の変化と、心への影響の深刻さが、よくわかりました。</p>	<p>友達ができない、人とのつながりができない、という不安の中で、大学が自分たちを見てくれている、見捨てていない、ということが、学生にとっては大きな支えになっている。だが、そのことをもっと多くの学生に伝え、気軽に大学の相談センターなどに、相談に行けるようにすることが大事だと思いました。</p>		<p>未曾有のコロナ禍の下で、様々な困難や不安に直面しながら、前向きに学生生活を送ろう(送っている)学生たちの取り組みと彼らの受け止めや考え方にも、焦点を当てていくことも大事ではないでしょうか？ そして、そうした取り組みに生協は何かができるか、あるいは一緒に取り組んでいることを知りたいと思います。 私が最近読んだ本で、『くできること』の見つけ方——全盲女子大生が手に入れた大切なもの』(岩波ジュニア新書) 石田 由香理著 は、何かヒントと励ましを得られた本です。参考までに。</p>